

2016年3月30日

情報文化センター

かながわ人権政策推進懇話会

かながわ外国人すまいサポートセンター 褒安

共に生きる地域をめざして

1. 外国人とは

- 日本国籍を持たない人々
- 外国から渡って来た日本以外の国や地域との関わりやルーツを持つ人々
- 言葉や習慣が日本人とは異なる人々
- それだけなのか？

2. 住民とは

- 日本に住む全ての人々
- 外国人は住民なのか？

3. 外国人が置かれている状況

- 医療
- 教育
- 福祉
- 日本語/母語
- すまい
- 習慣や生活様式、言葉、文化、宗教の違い
- 就職など

4. 問題解決のための外国人自身の地域参加について

- 外国人相談
- 地域のお祭り、イベントへの参加
- 地域の課題を解決する活動・行動
例として:3.11 震災後

5. 神奈川県の場合

- 行政
- ・1970年代～民際外交

- ・1980年代～内なる国際化
- ・1990年代～多文化共生
- ・1996年～川崎市市民代表者会議(現在10期)
- ・1998年～外国籍県民かながわ会議(現在9期)、NGOかながわ国際協力会議(終了)

○市民

- ・1980年代からの市民活動、草の根活動の活発化
特に環境問題をテーマに主婦を中心とした身近の問題を掲げ、問題点の根本を探り
解決へ向ける
動きが高まる。
- ・1980年代初めの出入国管理法の改正を受け多くの外国人が日本を目指すようになり、
それは途上国への支援、国内の外国籍住民へと目が向けられ支援、協働へと繋がっ
て行く。
- ・連携、協働のパートナーが市民団体間だけではなく行政との連携へと

○市民、行政の協働

- ・神奈川基金 21
- ・外国籍県民かながわ人会議、NGOかながわ国際協力会議の提言実現へと
2001年神奈川県外国人入居支援システム実施→かながわ外国人すまいサポートセンター設立(すま
セン)
- 2002年神奈川県医療通訳システム実施→多言語社会リソースかながわ設立(MICかながわ)
- 2006年神奈川県外国人教育相談設置
- 2000年～現在、あーすフェスタかながわの実施(神奈川県、民団、総連、華僑総会、エスニックグループ、
NGOなどが共催)

6. 立ち返って

○外国人問題の根本的問題

時代と形を変え今日に至るまで制度、協定などによる大きな移動は全て日本の事情によるもの
であること。すなわち、外国人問題は外国人が起こす事件や事故、騒ぎではなく日本の産
業、経済発展のための日本政府による労働力の移入により発生した問題である。

- ・1945年以前一戦前から日本に住み続けた在日コリアンと華僑
- ・1980年代一インドシナ難民
フィリピンからのエンターテイナー
- ・1990年代一ブラジルを始めとする中南米からの日系人労働者とアジア諸国からの研修
生・実習生
- ・2000年代一経済協力協定による介護士・看護師候補
- ・2010年代以降一メイド、オリンピック開催に向けた労働力の移入

- 日本の事情で来日した外国人へのサービス、支援が一部地方自治体及びボランティアに丸投げ

7. 課題

～国際交流から多文化共生へど→国際交流と多文化共生のはき違い、勘違いからの覚醒～

①課題

- 教育～全ての子どもたちの学ぶ権利 → 教育を受ける生徒に対し、理解できる言語による教育の実施
- 母語と母文化の保障 → 公教育における母語教育、母文化の保護(大阪の民族学級等参考)
外国人学校の制度的、法的保障・ 自らの文化・言葉・歴史を学ぶ権利の保障
- 福祉 → 全ての人たちに行きわたる福祉を目指す、多言語化
- すまい → 公平な貸与、公正な賃貸契約、多言語化、トラブル防止のための
レクチャー
- 習慣や生活様式、言葉、文化、宗教の違い → 理解、認め合い、尊重
- 就職など → 企業の意識の向上、行政職員への当用

②課題解決のために

- 学び合い
- 課題の確認、協議と議論(行政、NGO、当事者、企業、関係団体など)
- 外国人が住民であることを確認し、皆がともに生きられる地域・社会を目指すためのフラットな関係性を作り保ちながらの活動がもとめられる。
- 全てのマイノリティ、弱い立場の人たちの問題、地域が抱える問題・課題を解決するために住民たちが共に協力しあう。
○マジョリティの意識を変えるためのマイノリティの役割
日本人はやっつける人、外国人はやってもら人という非常識を超える、
- 当事者の意見、意思の尊重、実のある支援、連携、制度実現へと

8. 当事者の役割

- 日本で生活、仕事、教育において不利益な状態に置かれていたり偏見、差別によって受ける不条理について訴えその行動が正当なものだと主張するだけでは何も変えることはできない。
また、各コミュニティ単位だけの活動だけでは解決に至ることが難しい。
日本人:外国人は、行政:市民団体は、あつちとこつちと言う感覚、考え方を乗り越えそれぞれが住民として共通の課題認識を持ちながら様々な行動を起こし活動へと繋げる。
- 特に多くの経験、教訓を持つオールドカマーが日本人と協力し合い地域でのどのような役割を果たすべきかについて深く認識する必要もある。

9. ヘイトスピーチ

共生と相反する人の尊厳に問題。

多様な文化、民族、習慣、言語を否定し暴力と暴言で全てを抑え込もうとする前世期的対立構造へと向かわせるもの。

特に、子どもたちの心を傷つけ踏みにじている。

アイデンティティの殺人と見なし神奈川県としてもヘイトスピーチ禁止条例を設置するなど反ヘイトへの立場を明確にし実践すべき。

10. オリンピックを機に

52年ぶりに東京で開催されるオリンピックは、アジアの安定と平和への新しいステップとなる。

ヘイトスピーチやさまざまな差別案件の解決への努力こそオリンピック成功の鍵となる。

200以上の国、地域にルーツを持つ住民の権利が保障される姿を世界に示すことにより、多くの国々との理解、交流と親善を築く事になりまた、様々な協力の基盤となる。

11. 質疑

12. そして改めて考える「多民族・多文化共生とは？」

ともに生きること

ともに分かち合うこと

ともに解りあうこと

ともにまなぶこと

ともにはたらくこと

ともに担うこと

互いに尊重すること etc

参考

あーすフェスタかながわ

<http://www.earthplaza.jp/earthfesta/index.html>

かながわボランティア活動推進基金 21

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f5258/>

かながわ外国人すまいサポートセンター

<http://sumasen.com/>

NPO 法人多言語社会リソースかながわ (MiC かながわ)

<http://mickanagawa.web.fc2.com/>

外国籍県民かながわ会議

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f385/>

川崎市外国人市民代表者会議

<http://www.city.kawasaki.jp/shisei/category/60-7-2-0-0-0-0-0-0-0.html>

神奈川県外国人教育相談

http://www.earthplaza.jp/forum/foreign_education/